

# 茨城県農産物販売推進東京本部情報

平成29年 6月

## 1 東京都中央卸売市場（平成29年1～5月）の青果物取扱高について

- ① 全体の入荷量は80.6万tで、前年比3%増、金額は2,341億円で前年並となった。
- ② 茨城県産の入荷量は9.8万tで、前年並、金額は243億円で前年比2%減となった。  
(金額の内訳は、野菜203億円、果実39億円。前年同期比で野菜3%減、果実増減なし、平年同期比で野菜10%増、果実11%増。)  
→金額が【増加】した品目（前年対比）：はくさい(158%)、キャベツ類(106%)、メロン類(102%)  
→金額が【減少】した品目（前年対比）：レタス類(75%)、きゅうり(81%)、すいか(88%)
- ③ 茨城県の1～5月計の青果物入荷量は前年比105%(シェア12.2%)、取扱金額は前年比110%(シェア10.4%)となった。

	市場計 ※2			茨城			他県のシェア(1～5月計)			
	1～5月計	年間計	年間比	1～5月計	年間計	年間比	千葉	北海道	青森	
数量	H29	806,092		97,989	←シェア(12.2%)		13.3%	7.1%	4.5%	
	H28	783,042	1,956,079	40.0	97,758	229,650	42.6	14.5%	7.6%	4.6%
	(前年比)	103		100	シェア(12.5%)					
	平年値※1	804,121	2,013,667	39.9	93,439	226,294	41.3			
	(平年比)	100		105	シェア(11.6%)					
金額	H29	234,189		24,309	←シェア(10.4%)		8.9%	3.6%	5.1%	
	H28	234,897	586,489	40.1	24,910	61,743	40.3	9.0%	3.0%	5.6%
	(前年比)	100		98	シェア(10.6%)					
	平年値※1	224,049	483,051	45.6	21,996	53,617	41.0			
	(平年比)	105		111	シェア(9.8%)					

(単位：t, 百万円, %)

※1：平年値は平成24, 25, 26, 27, 28年の5ヵ年平均。  
※2：市場計は東京都中央卸売市場における総計を表す。

《参考》  
平成28年実績  
(1～12月計)

茨城県：金額シェア(10.5%)、数量シェア(11.7%)  
千葉県：金額シェア(8.0%)、数量シェア(11.5%)  
北海道：金額シェア(6.4%)、数量シェア(11.2%)  
青森県：金額シェア(6.0%)、数量シェア(6.2%)

## 2 東京都中央卸売市場（平成29年5月単月）の茨城県産青果物主要品目の取扱高 ( )内は前年対比

野菜類の入荷量は2万3千トン(110%)、単価は208円(91%)、金額は49億円(100%)  
果実類の入荷量は3千トン(99%)、単価は495円(106%)、金額は14億円(104%)

	品目	数量(t)		単価(円/kg)			金額(千円)			
		前年比%	平年比	前年比%	平年比	前年比%	平年比			
野菜	ピーマン	2,017	106	103	382	98	113	770,427	104	118
	ねぎ	1,487	89	110	450	85	102	669,077	76	111
	はくさい	6,612	125	116	64	110	94	422,485	137	115
	レタス	1,990	120	89	144	95	100	286,778	114	90
	<b>野菜類計</b>	<b>23,704</b>	<b>110</b>	<b>112</b>	<b>208</b>	<b>91</b>	<b>100</b>	<b>4,938,076</b>	<b>100</b>	<b>112</b>
果実	メロン類	2,008	101	101	506	105	113	1,016,378	106	114
	すいか類	713	89	98	360	107	114	256,589	94	111
	<b>果実類計</b>	<b>3,000</b>	<b>99</b>	<b>100</b>	<b>495</b>	<b>106</b>	<b>113</b>	<b>1,485,911</b>	<b>104</b>	<b>114</b>

## 3 東京都中央卸売市場における【メロン類】の取扱いについて

### ① 概況

東京都中央卸売市場（以下、都中央）における1～5月までの5ヵ月間のメロンの入荷状況は、年明けから晴天、気温高に恵まれ、生育が前進化していたことから、4月上中旬の入荷量は潤沢であったものの、3月下旬の低温、4月上旬の曇天の影響により、熊本県や本県等主要産地で果実肥大が停滞し、各産地とも小玉傾向となった。そのため、4月下旬、5月上旬、入荷量は前年平年を大きく下回った。都中央における取扱い状況を見ると、数量5,513トン（前年比95%）、金額36億円（前年比94.5%）、単価654円（前年比99.5%）となった。

このような状況の下、4月は、上中旬に熊本県産を中心に出荷量が多かったことにより、相場は安値基調であったものの、下旬から各産地とも小玉化により計画数量を下回る入荷量となったことから、価格は上げ基調に転じた。

5月は、本県産の入荷量が本格化する一方で、熊本県産アンデス、クインシーとも当初の見込みより出荷量が下回り、小玉傾向による品薄感を残したまま、アンデスについては早々に出荷が終了し、タカミへ切り換わった。このため、入荷数量は5月中旬に持ち直したものの、下旬に入り、再度、前年、平年を下回り、単月では前年比86%と、前年を大きく下回った。

### ② 本県産の状況

1～5月における本県産の入荷量は、3月中旬までの好天により、生育が前進化した影響から、オトメ、アンデスを中心に4月上中旬は前年、平年を上回ったものの、3月下旬の低温の影響により下旬以降は大きく減少した。

5月に入り、入荷は徐々に回復傾向にあり、作柄も良好な一方で、小玉傾向が解消されず、月間の入荷量は大玉傾向であった前年を下回った。

6月は、5月の安定した天候と気温高により、玉肥大も回復しており、クインシー、タカミ中心の出荷へと切り換わる中、小玉傾向は徐々に解消され、入荷数量も安定してきた。一方で、価格は、4月下旬、5月下旬と一時的な入荷不足があったことから、6月に入っても堅調に推移しており、本県産については期間全体を通じて520円（前年比102%）となった。今後も、大きく下げ基調とはならず、相場保ち合いが続く見通しであることから、価格は堅調に維持されると推測される。

	本年産（平成29年1月～5月）			前年産（平成28年1月～5月）			前年比		
	数量(t)	金額(千円)	単価(円/kg)	数量(t)	金額(千円)	単価(円/kg)	数量(%)	金額(%)	単価(%)
全体	5,513	3,606,008	654	5,805	3,813,906	657	95.0	94.5	99.5
茨城県	2,395	1,245,904	520	2,404	1,221,508	508	99.6	102.0	102.4

※各数値は、東京都中央卸売市場実績を基に算出